



平成22年4月2日

各 位

会 社 名 株式会社 セキド
代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
(コード番号 9878 東証第二部)
問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭
TEL. 042-643-6835

(訂正・数値データ訂正あり) 「平成22年2月期 第3四半期決算短信(非連結)」の一部訂正について

平成21年12月25日に発表いたしました「平成22年2月期 第3四半期決算短信(非連結)」の一部に訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおり訂正いたします。なお、訂正箇所は____を付して表示しております。数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信いたします。

記

【訂正箇所】

3～4ページ

定性的情報・財務諸表等

2. 財政状態に関する定性的情報

(訂正前)

①財政状態

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ842百万円減少し10,194百万円となりました。これは主に、新規店舗5店舗の出店などによりたな卸資産が529百万円増加したものの、有利子負債圧縮などにより現金及び預金が1,442百万円減少したことによるものであります。

一方、負債合計は、前事業年度末に比べ425百万円減少し5,063百万円となりました。これは主に、短期借入金が414百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ416百万円減少し5,130百万円となりました。これは主に、四半期純損失を412百万円計上したことによるものであります。なお、平成21年4月17日付の当社取締役会決議により、資本準備金及び利益準備金の減少並びに剰余金の処分による繰越利益剰余金の欠損てん補を実施いたしました。また、平成21年5月19日付の当社第47期定時株主総会決議に基づき、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、平成21年7月20日付で資本準備金300百万円をその他資本剰余金に振替えております。

これらの結果、自己資本比率は50.3%（前事業年度末は50.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ861百万円減少し、518百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において営業活動の結果減少した資金は962百万円となりました。これは主に、税引前四半期純損失394百万円の計上、売上債権99百万円、たな卸資産529百万円の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において投資活動の結果回収した資金は531百万円となりました。これは主に、定期預金の払戻627百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は431百万円となりました。これは主に、短期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む。）の純減少額414百万円によるものであります。

(訂正後)

①財政状態

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ842百万円減少し10,194百万円となりました。これは主に、新規店舗5店舗の出店などによりたな卸資産が529百万円増加したものの、有利子負債圧縮などにより現金及び預金が1,442百万円減少したことによるものであります。

一方、負債合計は、前事業年度末に比べ425百万円減少し5,063百万円となりました。これは主に、短期借入金が634百万円減少し、長期借入金が220百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ416百万円減少し5,130百万円となりました。これは主に、四半期純損失を412百万円計上したことによるものであります。なお、平成21年4月17日付の当社取締役会決議により、資本準備金及び利益準備金の減少並びに剰余金の処分による繰越利益剰余金の欠損てん補を実施いたしました。また、平成21年5月19日付の当社第47期定時株主総会決議に基づき、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、平成21年7月20日付で資本準備金300百万円をその他資本剰余金に振替えております。

これらの結果、自己資本比率は50.3%（前事業年度末は50.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ861百万円減少し、518百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において営業活動の結果減少した資金は962百万円となりました。これは主に、税引前四半期純損失394百万円の計上、売上債権99百万円、たな卸資産529百万円の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において投資活動の結果回収した資金は531百万円となりました。これは主に、定期預金の払戻627百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は431百万円となりました。これは主に、短期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む。）の純減少額626百万円と長期借入れによる収入300百万円によるものであります。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表
 (訂正前)

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年11月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年2月20日)
(省略)		
負債の部		
流動負債		
支払手形	135,943	269,718
買掛金	661,210	415,962
短期借入金	<u>2,720,000</u>	3,134,648
未払金	385,216	397,101
賞与引当金	80,945	133,307
ポイント引当金	152,193	151,787
その他	184,628	216,964
流動負債合計	<u>4,320,136</u>	4,719,488
固定負債		
退職給付引当金	309,401	310,507
役員退職慰労引当金	298,465	294,560
繰延税金負債	9,318	9,298
その他	126,111	155,515
固定負債合計	<u>743,296</u>	769,881
負債合計	<u>5,063,433</u>	5,489,369
(省略)		

(訂正後)

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年11月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年2月20日)
(省略)		
負債の部		
流動負債		
支払手形	135,943	269,718
買掛金	661,210	415,962
短期借入金	<u>2,500,000</u>	3,134,648
未払金	385,216	397,101
賞与引当金	80,945	133,307
ポイント引当金	152,193	151,787
その他	184,628	216,964
流動負債合計	<u>4,100,136</u>	4,719,488
固定負債		
長期借入金	<u>220,000</u>	—
退職給付引当金	309,401	310,507
役員退職慰労引当金	298,465	294,560
繰延税金負債	9,318	9,298
その他	126,111	155,515
固定負債合計	<u>963,296</u>	769,881
負債合計	<u>5,063,433</u>	5,489,369
(省略)		

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書
(訂正前)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)
(省略)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△346,668
長期借入金の返済による支出	△67,980
設備関係割賦債務の返済による支出	△16,382
その他	△57
財務活動によるキャッシュ・フロー	△431,088

(省略)

(訂正後)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)
(省略)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△626,668
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△87,980
設備関係割賦債務の返済による支出	△16,382
その他	△57
財務活動によるキャッシュ・フロー	△431,088

(省略)

以上